

# 「スタートアップ創出元年」の先へ、 勝算は「街の特色」にあり

うみの  
海野 朝日

(しがく総合研究所)

3月24日、世界的半導体メーカー・インテルの共同創業者であるゴードン・ムーア氏が亡くなった。半導体業界の更なる隆盛を予想した「ムーアの法則」の提唱者としても知られ、長きにわたり業界をけん引した立役者である。

そんな世界に名を馳せる有名企業へと成長したインテルは2022年、日本のAI開発スタートアップである株式会社アジラ（東京都町田市）とパートナーシップ契約を締結し、

すでに共同で実証実験などを行っている。日本企業がこうして活躍するのは誇るべきことだが、驚くべきはアジラ社が2015年に設立したばかりの新星であるということだ。いま、こうしたスタートアップ企業の動向に注目が集まっている。そこで本稿では、スタートアップ企業が日本経済にもたらす好影響や、足元の課題を考えたうえで、どのような可能性がスタートアップ企業に潜んでいるのかについて論じる。

## そもそも

### スタートアップ企業とは何か

最近耳にするようになった「スタートアップ企業」という言葉だが、実は政府などが明確に定義をしているわけではない、一般的な認識を幾つか確認しておこう。

大きく言えば2つの特徴がある。ひとつは「革新的／特徴的なビジネスモデルを有しているか」ということ、もうひとつは「設立から間もなく、短期間の急成長を目指している」ということだ。例えば、前述のアジラ社は人による検閲がなくても犯罪を察知できる「行動認識AI」を自社で開発しており、24時間フル稼働で異常を検知できるという独自の武器がある。実際に、業績も大幅に伸びているとみられる。

そうしたなかで岸田首相は、2022年を

「スタートアップ創出元年」と銘打ち、骨太の方針や総合経済対策でも投資拡大の旨を示し、同年末には「スタートアップ育成5か年計画」を発表するなど積極的に施策を講じた。現状、アメリカの調査会社スタートアップ・ゲノムほか1社が共同で公表した「Global Startup Ecosystem Report 2022」では、日本の都市の中から「TOKYO」が最上位にランクインしており、12位となった。一見上位とも見えるが、前年の9位からは順位を落としている状況である。では、今後東京を中心とした日本でスタートアップ企業を盛り上げるには何が求められているのか。当ランキングで長年1位を維持しているアメリカの「シリコンバレー」から学びたい。

### シリコンバレーは、なぜ圧倒的？

シリコンバレーは、カリフォルニア州サン

フランシスコの南にある地域を指す。愛知県よりもやや小さいくらいの面積だが、Yahoo!、Google、Apple、Twitterなど、多くの大企業が誕生した。さらに、「シリコン」という名の通り半導体の大量生産技術が初めて生み出されたのはシリコンバレーで、その創業メンバーにゴードン・ムーア氏は参画しており、後のインテル創業へと繋がっていくのである。

では、なぜシリコンバレーは世界最高のスタートアップ都市と呼ばれるのか。その理由は創業機運の高さにある。失敗を厭わず、挑戦するという文化が根付いているのだ。例えば、同地域にあるスタンフォード大学では、コンピュータメーカーのヒューレット・パッカード（HP）社が生まれたことで知られているが、そのきっかけは同大学の教授から強く起業を勧められたことが始まりと

いうのは有名な話だ。シリコンバレーではスタンフォード大学に限らず研究機関が充実しており、スピニアウトしてビジネスに生かす機運が非常に強い。

これだけ結果を残している地域には、優秀な人材が集まる。世界各地から成功を賭けてシリコンバレーに飛び込んでくるのだ。Facebook創業者のマーク・ザッカーバーグも最初はハーバード大学内で起業したが、勝機が見えるとシリコンバレーに移住した。だからこそ、成功しそうな企業にいち早く投資をしようと投資マネーも集まり、それを追い風に事業拡大を果たす企業も増える……という好循環が生まれているのだ。

### 街の特色を生かした強い

### 「TOKYO」を

日本ではシリコンバレーのような「創業機

運の高さ」があるのだろうか。中小企業白書によると2020年度時点の開業率は5・1%に留まり、都道府県別にみても東京は6・0%だ。2013年、政府は開業率を米英にならって10%台にすると目標を掲げたが、遠く及んでいない現状にある。では、今度どのように東京を盛り上げていけばいいのか。多くの観点があるなかで、ここでは「街の特色」に注目する。

帝国データバンクによると、特にスタートアップが多く集まる東京23区のなかでスタートアップ企業は港区、渋谷区、千代田区、中央区の4区で7割を占めており、それぞれの地域で特徴がある。例えば、中央区の日本橋エリアは大手製薬メーカーの本社が数多く集まっているが、その影響かバイオ・ヘルスケア系のスタートアップ企業が多い傾向にある。ほかにも大手町や丸の内がある千代田区

であればテック系、多くの娯楽が集う渋谷区であれば個人向けサービス系が多いなど様々だ。このように地域別の傾向があることで、同じ地域にある大企業との連携によってスタートアップ企業が育ちやすい環境になり創業しやすくなれば、スタートアップ企業の「創業機運」が高まることが期待される。

こうした「街の特色」を生かして各区それぞれの特徴にあったスタートアップ企業が集いながら、国や大学などとの連携を加速させることができれば、より成長しやすい環境を構築することができるはずだ。その軌道に乗り、「我こそは」と次なる創業につながれば好循環が生まれる。日本流のスタートアップ企業支援を発展させるために、各地域の持つ強みを生かさぬ手はない。

